

～保健センターだより～

Vol.0

京都造形芸術大学

保健センター 2017.3

応急処置について

大学での学生生活の中やスポーツの際、急性の障害や外傷に出くわしたときに、あわてずに行なう初期治療としての応急処置を挙げてみました。これらの障害は発生しないように予防することが第一ですが、万が一発生すれば落ち着いて対処することが必要となります

意識・反応（応答）がないとき

- ・ 119 番に通報し、AED を取り寄せる
- ・ 人を集め、安全な場所を確保
- ・ 呼吸がなければ心肺蘇生法を開始
30 回の胸骨圧迫と 2 回の人工呼吸の組み合わせ（人工呼吸は省略可）



外傷の手当て

- ★消毒せずに水で洗う。
- ★絆創膏やガーゼで保護する。
- ★出血している場合、
直接きれいなガーゼ、ハンカチなどを当て、その上から圧迫します。止血が困難な場合は医療機関へ

やけどの手当て

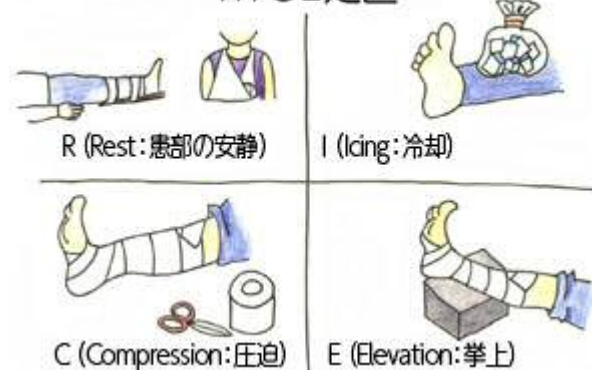
- 水道水で 15 分程度冷やす
- 水ぶくれが出たら、つぶさないでガーゼ等で保護し、受診する。

打撲・捻挫の応急手当の基本

- ① 安静・固定：患部を固定し痛みを緩和
- ② 冷却：氷・冷湿布などで冷やす
- ③ 圧迫：包帯で圧迫し腫れの予防。圧迫しすぎに注意！
- ④ 挙上：可能であれば、心臓より高い位置で保持

※骨折・捻挫・脱臼・靱帯損傷などでは見分けが困難です。腫れがひどい、変形がある、症状が増強する場合は早めの受診をしましょう。

RICE処置



保健センターでは、学生の皆さんの健康管理のお手伝いの場として定期健康診断、健康に関する相談や応急処置などを行っています。学校医（毎週月曜日）による健康相談も行っていますので、何かあれば、気軽に来室してください。

保健センター 人間館地下1階